

アテネで開催された Heart Failure 2014 で Heart Failure Association of ESC と日本心不全学会とのジョイントセッションが開催されました

2014年5月17日から20日までギリシャ・アテネにおいて Heart Failure Association of ESC の学術集会が開催されました。約4000名を超える医師・コメディカルが参加し、毎日多くの口述演題・ポスター発表が行われました。昨年までと比較し、日本人参加者が多く会場で見受けられ、学会本部によるとヨーロッパ以外の国からの参加者としては日本人が最も多い参加人数であったとのことでした。

また、5月19日夕方には、日本心不全学会との Joint session が開催されました。Heart failure around the world in 2014 のテーマのもと、本学会の磯部理事長ならびに Heart Failure Association of ESC の S.D.Anker 総裁が座長を務め、計4演題が発表されました。本邦からは磯部理事長が孤発性心サルコイドーシスの頻度・診断をトピックにした「Prevalence and diagnosis of isolated cardiac sarcoidosis」を、国立循環器病研究センターの北風部長が有田町研究を基にした本邦における心不全の傾向と危険因子をトピックに、「What are the current risk factors for heart failure in Japan? The lesson from the epidemiological analysis of Arita study」との演題名でそれぞれ発表されました。



ヨーロッパの演者からは、最新の心不全におけるカテーテルインターベンションと、心不全治療における医療経済・政治への働きかけについての2演題が発表されました。夕方のセッションで参加者は総数100名程度でしたが、活発な討議が行われました。

来年度の Heart Failure Association of ESC 学術集会は2015年5月23日から26日の日程でスペイン・セビリアにて開催されます。本学会としては来年度以降もジョイントセッションの開催も引き続き計画する予定です。

また、大阪にて本年10月10日から12日まで開催予定の第18回日本心不全学会学術集会でも Heart Failure Association of ESC ならびにアメリカ心不全学会とのジョイントセッションを開催いたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。

